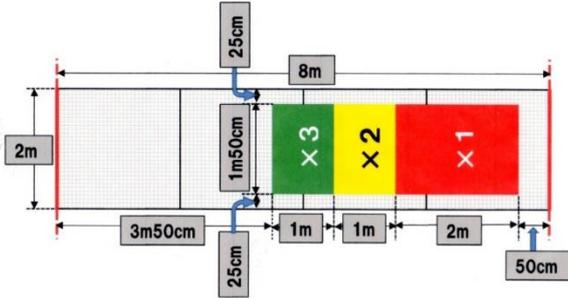


ACEボール競技規則

1 コート

コートの大きさは、原則として8m×2mとする。

ただし、会場の条件等により全長を短縮することができる。



2 用具

ボール：硬式テニスボール 赤色5個(1～5点)、青色5個(1～5点)

リング：市販の給水ビニールホース90cmを輪にしたもの10本

(5本×2チーム分)

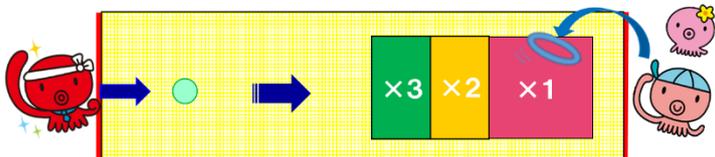
3 チーム

チームの構成は、男女の区別なく1チーム2～4人とする。

※1チームの人数は最大4人まで

4 試合の進め方

- 赤チーム・青チームによる対抗戦で行う。
 - じゃんけんにより勝ったチームは先攻後攻を決める。ボールの色は先攻を赤、後攻を青とする。
 - 前半戦を行う。
 - 各チーム「サーバー(ボールを転がす人)」と「レシーバー(リングを投げる人)」に分かれてそれぞれの位置に立つ。
 - 審判の合図で、先攻チームのサーバーが、ボールをひとつ転がす。
※転がすボールの順番は何点ボールから転がしてもよいが、主審の合図後、転がす前に数字をコールすること。
 - 先攻チームのレシーバーが、リングをひとつ投げる。
※リングでボールを捕まえるように意識し、サーバーがボールを転がす前にリングを投げないこと。
※ボール1球につき、必ずリングをひとつ投げること。
 - 後攻チームが①～③を行う。
 - それぞれのチームが交互に①～③を行う。
※持ち球が5球なので、5回ずつ行う。
 - 得点を計算する。
- ④ すべてのボール・リングを片づけ、各チームサーバーとレシーバーを交代して、後半戦を行う。(前半同様に行う。)
- ⑤ 前半と後半の合計得点が大きいチームの勝利となる。



5 得点

各チームは、自分チームの色のボールを使う。ボールにはそれぞれ点数1～5が付けられている。

このボールがリング内で止まった時、以下のとおりに得点を計算する。

- シングル得点ゾーンでリング内に止まった場合。
⇒ボール点数×リング数×1(点)
- ダブル得点ゾーンでリング内に止まった場合。
⇒ボール点数×リング数×2(点)
- トリプル得点ゾーンでリング内に止まった場合。
⇒ボール点数×リング数×3(点)
- それ以外のゾーンでリング内に止まった場合。 ⇒0(点)

得点に関する注意事項

- (2投目以降)ボールを転がす前に投げ終わっているリングの中にボールが止まった場合も得点となる。
- 相手チームの投げたリングの中にボールが止まった場合も、得点となる。
- 先に投げ終わっているリングや相手チームのボールを、後から投げるリングで弾き、相手チームの得点を減らす行為も作戦として認める。
- 2つ以上のリングが重なっているスペースにボールが止まった場合は、かかったリング1つにつき1回得点を計算する。
- 得点ゾーンやリングの一部にボールがあるとき、そのゾーンやリングにかかった面積によって得点を決める。
(上から見て、より面積の大きい方を得点とする。)

6 反則

- サーブ及びレシーブ時に、体の一部がサーバーライン・レシーバーラインを出してしまうと、ファウルとなる。
※投げ終わった後でも、体の一部がラインを出てはならない。
- リングが一瞬でも宙に浮かないと、投げたことにならずファウルとなる。
- サーバーよりも先にレシーバーがリングを投げた場合は、ファウルとなる。
- ファウルになると、ペナルティとしてその時に投げたボールとリングの両方を取り除く。また、相手のボールやリングが動いた場合は元に戻す。

7 延長戦

各チーム後半が終了した時点で、前半と後半の合計得点が同点の場合に延長戦を行う。

- 後半ゲーム終了後のリングをそのまま残して、ボールのみ回収する。
- 本戦とは関係なく、再びじゃんけんを行い、先攻後攻を決める。
- 各チーム内でサーブの順番を決める。
- 先攻チームが1点ボールを転がす。
- 後攻チームが1点ボールを転がす。
- 大きな得点を取ったチームの勝利となる。

注)⑥の時点で同点の場合は、コート上のボールを取り除いてからサーバーを交代して点数の小さい順にボールを投げる。